

# 道徳学習指導案

指導者 高美が丘小学校 藤原吏枝

- 1 学 年 第2学年1組 男子19名 女子14名 計33名
- 2 主題名 善悪の判断 1ー(3)(情報モラル関連項目 誹謗・中傷)
- 3 ねらい 自分の生活経験をもとに、役割演技をすることを通して、よいこと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養う。
- 4 資料名 「おかあさんの引き出し」(出典「心に響く道徳学習教材集」広島県教育委員会 一部改作)
- 5 主題設定の理由

## 子どもの姿

本学級の児童は、素直に正しいと思うことややらなければいけないことに取り組もうとする。友だち同士の影響力も大きく、いいことをまねしようとしたり、がんばっていることを認め合ったりする。反面、事情や状況もよく確かめずに、友だちがやっていることに加わって悪口を言ったりけんかをしたりする姿も見られる。

本校2年生に実施したアンケートによると、学年の傾向として、実体験の乏しいことについては、自分の中にやっていいことと悪いことの基準が持ちにくい。一方、以前自分が体験したり繰り返し学習したりしたことがあれば、他の似たような場面に出会った時善悪の判断ができる割合が高まることが分かった。日常生活や道徳の学習を通して、よいことと悪いことが区別できる判断力を養いたい。

## 主題について

いけないと分かっているのに、自分の行動をとめられないということは、子ども全般によく見られる。じっくりと話をすれば、いけなかったと分かるのに、その場では適切な判断がしにくい。物事に直面した時に、きちんとした判断ができる力は、よりよい社会生活を送るための基盤といえる。特に、昨今のようにインターネットなどが発達し、周りに情報があふれている環境の中では、自分一人が判断を迫られる場に遭遇する機会が増える。一人一人がその場で正しい選択ができ、どのような行動をとるべきかという判断力が身に付いていなければ、自分の身を危険にさらすこともあるだろう。この資料で学習することを通して、きちんと善悪の判断ができ、よいと思う行動をしようとする態度を育てることができると考える。

## 心に響く資料

本資料は、広島県教育委員会の「心に響く教材集」の中にある「おかあさんのちょ金ばこ」をもとに改作したものである。友だちとの約束を守るために、いけないと分かっているのにお母さんの引き出しから百円玉を持って行くじゅん子の迷いが描かれている。やってはいけないと分かっているのに直面したとき、迷いながらもやってしまうという場面は、日常生活の中でもよくある。経験を想起しながら、善悪を考えていくのにふさわしい資料になるように工夫した。

## 心に響く指導の手だて

### ○指導ポイント

- ・導入 道徳目盛りに、今の自分の振り返りを書かせる。
- ・展開 前段では、道徳目盛りに、じゅん子がどれくらい決まりを守ろうとしているかを書かせ、ネームプレートを黒板に貼って、互いの考えが分かるようにしておく。後段では、役割演技を通して、感想を交流し、善悪の判断の大切さに気付かせる。
- ・終末 今までの自分の行動について振り返らせるために、お家の人からの手紙を読む。

### ○対話

- ・自己内対話 自分の考えを持たせやすくするために、道徳目盛りを活用する。目盛りで選んだところについて、自分の考えを持たせるようにする。
- ・クラストーク 道徳目盛りの位置を決める際の、自分の判断について理由を言えるようにさせる。そして、友だちと自分の選択を比べ、理由を聞きあうことにより、登場人物の感情をより深く考えさせる。また、役割を演じたり、見たりすることを通して

て、悪いと思うことを勇気を出してやめる意味や価値を感じとらせる。

## 6 學習過程

| 段階                                       | 学 習 の 流 れ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 対 話                                                                                   | 教師の働きかけと留意点・評価（☆）                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| た<br>が<br>や<br>す<br><br>み<br>つ<br>め<br>る | <p>1 よくないことをしようとした時のことを思い出す。</p> <p>○よくないと思ったけど、してしまったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よくある。</li> <li>・時々ある。</li> <li>・ほとんどない。</li> </ul> <p>2 資料の前半の話をもとに、じゅん子の気持ちについて話し合う。</p> <p>○なかよしのしるしに同じ物を集めているじゅん子さんは、消しゴムを買おうと誘われた時、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人で同じ物を持つのは嬉しい。</li> <li>・かわいいのがあるといいな。</li> <li>・早く買いに行きたいな。</li> <li>・また二人の宝物が増える。</li> <li>・お母さんに早く言わなくちゃ。</li> </ul> | <p><b>自己内対話</b></p> <p>道徳目盛りに今までの自分の態度を位置付ける。</p>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳目盛りに記入させることで、今までの自分を振り返りやすくさせる。</li> <li>・ペアで劇化をすることで状況をつかませ、<b>理由</b>をしつかり出させるようにする。</li> <li>・どうしても二人で同じ物を買いたいという気持ちに共感させる。</li> </ul>              |
| ふ<br>か<br>め<br>る                         | <p>○じゅん子はどんな気持ちでお母さんの引き出しを見ているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ帰ってくるか分からないから、お金を借りておこう。</li> <li>・後で返すから、悪くない。</li> <li>・友だちが待っているから仕方ない。</li> <li>・間に合わない、大親友でなくなるかもしれない。</li> <li>・いつもいけないと言われているので守らなければ。</li> </ul>                                                                                                                                                                                           | <p><b>自己内対話</b></p> <p>じゅん子が、友だちとの約束とお母さんに言われていることとの間で引き出しを開けるべきかどうか迷っている気持ちを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面絵を活用し、迷いをとらえることができるようにする。<b>【再話】</b></li> <li>・ネームプレートを黒板に貼らせ、みんなの考えが分かるようにしておく。</li> <li>・児童から出された理由を整理して、板書する。</li> </ul> <p>☆ワークシートに考えを書いているか。</p> |
| た<br>か<br>め<br>る                         | <p>3 資料の後半をもとに役割演技をし、じゅん子さんの気持ちの変化について考える。</p> <p>◎じゅん子は「これにしましょうよ。」と言ったくみ子さんになんと答えるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごめんね、今日は買わない。</li> <li>・欲しいけど買えないんだ。</li> <li>・うん、買おう。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                | <p><b>クラストーク</b></p> <p>役割演技をしたり、見たりして、感想を発表し合い、善悪の判断の大切さに気付いていけるようにする。</p>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅん子さんが消しゴムを買うのをやめた気持ちの変化に気付かせるために、役割演技の中の子どもの言葉をとらえ、切り返しの発問を行う。</li> <li>・役割演技を見ている児童は、演技手と一緒に心の中で演じ、共感的な気持ちを出し合うように助言する。<b>【視点を変える】</b></li> </ul>    |
| つ<br>な<br>ぐ                              | <p>4 自分の生活を振り返り、自己評価をする。</p> <p>○今までの自分に、一言メッセージを書こう。</p> <p>5 お家の人の手紙を読む。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p><b>自己内対話</b></p> <p>今の思いを、最初に書いた道徳めもりに付け足す。</p>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で見つめた自分を再び振り返り、考えの変化に気付かせる。</li> </ul> <p>☆生活の中で、正しいことに</p>                                                                                           |

|  |  |                              |
|--|--|------------------------------|
|  |  | ついで的確に判断しようとする気持ちを持つことができたか。 |
|--|--|------------------------------|

## 7 資料

### 「おかあさんの引き出し」

じゅん子さんとくみ子さんは、大のなかよしで、いつもいっしょにあそんでいます。二人とも、かわいいものをあつめるのが大好きです。二人がなかよしのしるしに、おそろいのものをあつめようと決めて、キャップや、メモちょうなどを、そろえています。

ある日、くみ子さんが、じゅん子さんに  
「ねえ、きょう、けしゴムをかいに行きましょうよ。」  
と言いました。

「うん、いいわ。」  
じゅん子さんとくみ子さんは、おうちにかえってお金をもらい、三時に学校の前にあるお店で会うことに決めました。

「ただいま。」  
じゅん子さんが、家にかえると、お母さんがいません。  
(どうしよう。お母さんが、かえって来るのをまっていたら、くみ子さんとやくそくした時間におく  
れてしまうわ。)

じゅん子さんは、こまってしまいました。  
(そうだ、あそこに、お金があるかもしれないわ。)  
じゅん子さんは、お母さんがお金をしまっている引き出しに気がつきました。この引き出しには、  
お母さんの大切なものが入っています。いつも、お母さんから、かつてに中を見たりさわったりして  
はいけないと、つよく言われています。

時計を見ると、あと少しで三時です。じゅん子さんは、だんだん気もちがあせってくるようでした。

(この引き出しの中のお金をちょっとかりてもいいかしら。)  
じゅん子さんは、あわててお母さんの引き出しをあけました。そして、さいふから百円玉を一こだ  
けとり出すと、くみ子さんが、まっているお店に、いそいで出かけて行きました。

お店にはいると、たくさんのけしゴムがならべてありました。くみ子さんは、うれしそうにえらん  
でいます。でも、じゅん子さんは、かわいいけしゴムを見ても、ちっとも心がうきうきしてきません。  
「ねえ、これにしましょうよ。」

くみ子さんが、ゆびさしたうさぎのけしゴムには、二人が、大すきなうさぎの絵が、かいてありま  
した。

(わたしもくみ子さんも、大すきなうさぎのけしゴム。でも、お母さんの引き出しからとり出したお  
金で、けしゴムを買ってもいいものかしら。)

じゅん子さんは、とうとう、うさぎのけしゴムを買うことが、できませんでした。